

プロポーザル&論文の書き方に関するコメント

古屋 玲 (NAOJ-Hawaii)

email: rsf at subaru.naoj.org

2007 October 12: 加筆修正

Proposal ... OVROミリ波干渉計TACの経験から

Referee/TACメンバーは、
あなたのプロポーザルの弁護人、検察官 or/and 裁判官

1) アブストラクトを重視せよ

- a. レフェリー、TACは30-50通のproposalを読む …… 忙しい、審査員が最初に”持ってしまった印象”を覆すことは容易でない。
- b. 望遠鏡のリソース(= 提供可能な望遠鏡時間)は有限 …… すべてのプロポーザルを採択できない(= どれかを落とす必要がある)。
- c. 大多数の意見が一致する、絶対(不)採択という提案は少ない、その他大多数は当落どちらに転んでも不思議でないものばかり。

2) 可能な限り、具体的に記述せよ …… 誰かがあなたのプロポーザルの弁護人になってくれるかもしれない。

→ 弁護人が弁護しやすいような材料の提供の仕方を

直前の講演で、今西さんの時間estimateの仕方に対して、八木さんが必要なS/Nを少し下げた場合の時間のestimateをコメントしましたね、あれを思い出して下さい。

論文

指導教官、共著者からコメントをもらったら、問題を切り分けよう。
サイエンス（内容）に関わる問題か？ あるいは、単なる表現上(英語)の問題か？

英語の問題であった場合、科学英語の書き方には方法論がある。

注意すべきポイントに気を配りながら、普段から(お手本となる)論文を読もう。
例えば、

- 1) 助動詞、副詞で表す「確かさ」の違い
- 2) 論理の転換点を表す語(and, but, while, etc etc ...)に注意せよ。

実際、注意すべきポイントは多々有ります。以下に一例を示しますが、「科学英語論文のすべて」(日本物理学会編、丸善)など、座右の一冊にして勉強して下さい。

1)について

助動詞、副詞で表す確かさの違い

助動詞

副詞(形容詞)

動詞

will 100-95%

would 95-90%

should 90-80%

may 50-30%

might 50-20%

could < 30%

自分で表を整理してみよう。

ここでの確率の出典は、『科学英語のセンスを磨く－オリジナルペーパーに見られる表現』鈴木英次、化学同人 1999年 ISBN 4-7598-0834-5による。確率については異論もあるだろう(私も必ずしも著者に100%同意しない)が、強弱の順序は外れていないはず。身近な例: “You could win \$100,000!”と言われたら”本当”の意味は? (そんなの当たり前っこないよね!)

上の表のように整理しておけば、必然的にあり得ない組み合わせ=避けることのできる間違いを防げる。

英英辞書を使おう!
英和/和英は今すぐ屋根裏部屋
に投げ込んでしまおう